

上関 未来通信

正月号

通算328号

発行 平成26年1月23日

謹んで新春のお慶びを申し上げます

平成二十六年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。また、平素より『上関町まちづくり連絡協議会』の活動にご支援、ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

昨年は、日本経済が回復基調となり、富士山の世界遺産登録や東京五輪の開催決定など、全国的に明るい話題の多い年でした。また、十二月に出された『エネルギー基本計画』の素案に「原子力は基盤となる重要なベース電源」という記述が盛り込まれるなど、上関町にとって明るい兆しの見える年となりました。

今年はその兆しを確かなものとし、目標である町づくりの実現に向け、町民一丸となって歩みを進める年にしなければなりません。本年も、町連協の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

八島から上る朝日（四代八幡宮から望む）



学び、伝えるための活動を!!

平成26年初頭、青壮協の役員が集まってもらい、昨年を振り返るとともに、新年に向けての抱負や会の活動方針などを語っていただきました。



上関町まちづくり連絡協議会 事務局長 古泉 直紀

上関町にとって、まだまだ厳しい状況ではありますが、昨年が歓迎すべき出来事もいくつかあり

学ぶだけではなく、発信する年に



上関町青壮年連絡協議会 会長 藤井 快宏

昨年、青壮協として様々な活動に取り組み始めた年でした。勉強会や視察を通じて貴重な情報も得ることができました。しかし、マスクミの偏った情報に振り回され、間違った認識を持つている町民も多いような気がします。

今年は我々が勉強するだけではなく、正しい情報をどんどん発信していく活動をしていきたいと思っています。

「元気な上関」を全国に知らせたい



上関町青壮年連絡協議会 事務局長 柏田 真一

昨年は、以前から念願だった勉強会や視察などに参加し、祝島にも行くことができました。個人的にはある程度目標が達成できた年でした。

今年「上関は諦めずに頑張っているぞ」という姿勢を、町内外の多くの人たちに知ってもらいたいと思います。そのためにももっと勉強する必要があります。少人数の勉強会でもいいので頻りに開催し、まずは地元から活動の輪を広げていきたいと思っています。



上関町青壮年連絡協議会 副会長 山崎 強

「知らない」というのは仕方ありませんが、偏った間違った情報を判断基準にしては正しい方向は見つかりません。青壮協としては様々な団体と交流を持ち、協力を仰ぎながら、正しい情報を町民の人に知ってもらう発信源になればいいと思っています。

メンバーを増やし、団結しよう



上関町青壮年連絡協議会 副会長 守友 誠

原子力政策については、民主党政権の時代と比べてずいぶん状況がよくなったと思います。上関は原子力の立地を町づくりに結びつけようとしてきました。私たちはそれに向けた準備をしていかなくはなりません。

今年は青壮協のメンバーを増やし、積極的に町民に協力を呼びかけていきたいと思えます。また、町内で勉強会などを開き、老若男女を問わず、広く参加を呼びかけていきたいですね。

体験や情報を伝える場づくりを



上関町青壮年連絡協議会 事務局長 松原 聖

昨年は各地に視察に行くことができ、様々なことを学ばせてもらいました。しかし、その体験を町内の人に伝える手段がほとんどありませんでした。

今年、我々の体験や情報を多くの人に知ってもらう場をつくっていききたいと思っています。各地区の人たちと青壮協との交流会が開けるといいですね。

同じ中国地方で積極的な交流を



松江エネルギー研究会 副代表 福村 敬香氏



松江エネルギー研究会 代表 石原 孝子氏

昨年11月29日、島根県松江市で、身近なエネルギーや原子力について情報収集や発信などの活動を行っているグループ『松江エネルギー研究会』の代表者2名と、原子力産業協会の地域ネットワーク担当・坂上氏

『松江エネルギー研究会』と意見交換

が来町。上関町青壮年連絡協議会（青壮協）のメンバーらと意見交換を行いました。



午後2時前に到着した一行は、まず中国電力上関準備所で青壮協メンバーと合流。ここで中国電力社員から上関原子力発電所の建設計画や現状などの説明を受け、続いて田ノ浦の建設予定地に向かいました。田ノ浦計画地点では、周辺環境を

保護するための対策や、追加された津波対策などの説明を受けるとともに、地盤、地質調査などの概要説明を受けました。来町者らは、田ノ浦はもちろん、建設前の現場は初めての視察ということで、設備の目的や調査坑道の深さ、岩盤の状態などについて質問をしていました。



縦坑をのぞき込む視察者ら



田ノ浦の計画地点を視察する一行

松江の勉強会にも参加

12月12日、青壮協の藤井快宏会長と松原聖事務局の2名が松江市を訪れ、「放射線とくらし」をテーマにした講演会に出席しました。これは「松江エネルギー研究会」が主催したもので、講師は北海道教育大学大学院・鶴飼光子教授です。講演は「放射線は医療や工業はもちろん、食品への照射も行われており、有効利用されている。微量の放射線を過大に怖がっていたら、別の面でのリスクが大きくなる」といった内容でした。参加した両名は「この内容をぜひ上関町民にも知ってほしい」と語っていました。



松江高専の授業として行われた講演を参観

先進地の意見を活動に活かしたい

石原／私たち『松江エネルギー研究会』は2004年に結成した民間団体です。市民の立場で「原子力について良いか悪いかの判断でなく、まずは正確に知ろう！」をテーマに、エネルギーや原子力、放射線などについての講演会や勉強会を開催しています。

中国電力とは直接関係せず、これまでは行政と一緒に活動してきました。震災以降はエネ庁の支援を受け、地元大学とも連携した活動をしています。青壮協／様々なテーマで講演会を開催されていますが、どんな講師なら興味を持ってもらえますか？

石原／原子力の専門家ではなく、評論家や新聞の論説委員など、多面的な考え方、見方をする人がいいようです。

青壮協／福島第一原子力発電所の事故以降偏った情報が蔓延して、原子力に対する不信感が広がっています。正しい情報を知ってもらうにはどうすればいいでしょう。

福村／まずは身近な人との会話から始めてはいいでしょうか。信頼できる人からの情報なら信じてもら

えます。日頃の付き合いの中で、信頼関係を築くことが大切です。石原／放射線については、実際に測ってみるのも効果がありますね。耳で聞いたことが、計器で実際に確認できますから。青壮協／島根原子力発電所の再稼働に向けた動きについて、松江市民はどう感じていますか？

石原／賛成が多いと思います。これまである程度勉強してきましたから、原子力に対しては冷静な見方をされる人が多いようです。青壮協／隣接の柳井市では「情報が少ない」「勉強する機会がない」という声も聞きます。福村／上関にはこれだけのメンバーがいっぱいしゃるので、一緒に勉強しましょうと声を掛けてみては？外堀から埋めていくことも大切だ



2013年の出来事

- 1月／ 未来通信正月号発行
- 3月／ 青壮協島根視察
- 4月／ 町連協幹事会
- 青壮協が原産協年次大会へ参加
- 未来通信10号発行
- 6月／ 町連協幹事会
- 上振会島根視察
- 未来通信特集号発行
- 9月／ 室振会島根視察
- 10月／ チラシ「原子力の日にあたって」発行
- 26日に町内街宣
- 青壮協女川視察
- 青壮協祝島渡島
- 11月／ 青壮協祝島渡島
- 町づくり白井田会島根視察
- 「松江エネルギー研究会」との意見交換会（町連協・青壮協ほか）
- 12月／ 戸津親和会島根視察
- 青壮協松江の「放射線講演会」出席
- 未来通信11号発行

※緑の文字は青壮協およびその他の団体